

平成20年8月の熱中症による救急搬送の状況

総務省消防庁では、平成20年8月の熱中症による全国の救急搬送の状況をとりとめたので、その概要を公表します。

総務省消防庁では、9月2日に平成20年7月の熱中症による全国の救急搬送の状況を公表したところですが、この度、平成20年8月の結果がまとまったので公表します。

【別添資料】

- [○平成20年8月の熱中症による救急搬送状況（都道府県別）（別添1）](#)
- [○熱中症による救急搬送比率（別添2）](#)
- [○平成20年8月の熱中症による救急搬送状況（日別）（別添3）](#)
- [○平成20年8月の熱中症による救急搬送状況（年齢、傷病程度別）（別添4）](#)



(連絡先)
消防庁救急企画室
担当：松野補佐、島田係長
電 話：03-5253-7529
FAX：03-5253-7539

【ポイント】

- ・ 平成 20 年 8 月の全国における総救急搬送人員は 399,015 人で、そのうち熱中症による救急搬送人員は 8,857 人 (2.2%) でした。これは、平成 19 年 8 月の熱中症による救急搬送人員 16,209 人の 54.6%となっています。
また、熱中症による救急搬送人員の総救急搬送人員に対する割合について、平成 20 年 8 月と平成 19 年 8 月を比べると、沖縄県を除く 46 都道府県で平成 20 年は減少しています。
- ・ 8 月上旬は、7 月後半から続く猛暑日が全国各地で観測され、熱中症による救急搬送人員が多くなっています。しかし、8 月下旬には、北日本や東日本などで、気温の低い日が多くなるなど、8 月全体の熱中症による救急搬送人員は、平成 20 年 7 月の 12,747 人の 69.5%の水準にとどまっています。
- ・ 熱中症による救急搬送人員の年齢区分をみると、成人が 4,021 人 (45.4%) と最も多く、次いで高齢者 (65 歳以上) が 3,500 人 (39.5%) になっています。特に、高齢者は、人口構成割合 (統計局人口推計、平成 20 年 8 月) の 22.0% と比べると、熱中症による救急搬送人員の比率が高いことがわかります。
- ・ 熱中症により搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く 5,553 人 (62.7%)、次いで中等症 2,970 人 (33.5%)、重症 195 人 (2.2%) の順となっています。また、死亡も 14 人 (0.2%) 報告されています。
 - ※ 軽 症：入院を必要としないもの
 - 中等症：重症または軽症以外のもの
 - 重 症：3 週間の入院加療を必要とするもの以上
 - 死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの

(参考)

- ・ 政府では、国民へ熱中症に対する注意を呼びかけるとともに、下記の HP で熱中症の情報を提供しています。
- ・ 環境省熱中症情報
(http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/)